



▲うるち米の粉でだんごを作り、セイロで蒸して木の枝に刺して飾り付ける小正月の行事「藪玉飾り」に小学生たちが取り組みました。1月16日(土)／山口公民館 (撮影：市民カメラマン・佐藤清一郎)

# みんなのひろば



▲利き酒のように香りや味で、また茶葉の色や形などお茶の産地を当てる「闘茶会」で40人の参加者が競い合いました。1月13日(水)／市民文化センターミュージス



▲30人以上の参加者が熊手で落ち葉を掃き集め、堆肥づくりをした「落ち葉掃き体験」。お昼には地元野菜で作ったけんちん汁に舌鼓を打ちました。1月12日(火)／城地区の雑木林



▲各小学校代表者の団体戦。埼玉県大会を目指し、読み手の声に耳を研ぎ澄まします。第14回「彩の国21世紀郷土かるた」所沢大会 1月16日(土)／市民武道館 (撮影：市民カメラマン・八木豪彦)



## エコ・モビリティでいこう!

### 車を購入するときは、環境性能を考えよう

日本は1990年と比較して2008年～2012年の間に温室効果ガスを6%減らすと世界の国々と約束(京都議定書)しましたが、昨年度は1.9%増えてしまいました(グラフ参照)。

#### ◆マイカーからの温室効果ガスは?

温室効果ガス排出量は、不景気の影響で大幅に減っていますが、マイカーからは相変わらず多く排出しており、1990年と比べて35.6%も増加しています。

#### ◆所沢市の乗用車は増えている!

所沢市の乗用車は約20年前の平成元年と比べると1.7倍に増えています。そうすると、車の環境性能は温室効果ガス排出量に大きく影響します。

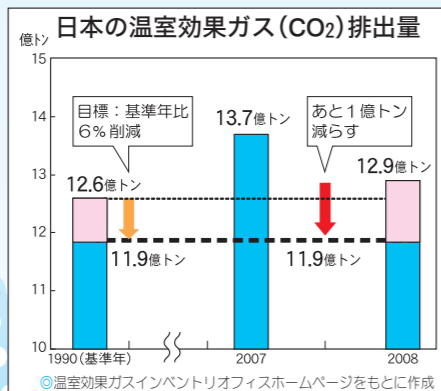
#### ◆環境にやさしい車を選ぼう!

国では、自動車重量税・自動車取得税の特例措置(エコカー減税)や環境対応車への買い換え・購入に対する補助制度(エコカー補助金)等で環境性能に優れた車の導入を支援しています。

車両購入時は車の環境性能も考え、過度のマイカー利用を控えつつ環境にやさしい移動に取り組んでみましょう。

問い合わせ 環境総務課 ☎2998-9133 FAX2998-9394

エコ・モビリティとは、環境にやさしい移動の仕方を意味する造語です。



エネルギー

みんなで止めよう温暖化 チーム・マイナス6%

所沢市温暖化対策をすすめます

### 皆さんからの写真や投稿をお待ちしています!

▶エッセイおよび市内で撮影した写真やイラストなどを募集▶写真には撮影日・場所・コメント(約60字)を明記▶エッセイはテーマにそって300字以内▶次のテーマは『ひなまつり』▶文章は添削あり▶締め切りは2月8日(月)必着▶掲載者には記念品を進呈▶投稿写真・原稿は返却しません▶いずれも住所・氏名・年齢・電話番号を明記のうえ〒359-8501並木1-1-1所沢市役所広報課「みんなのひろば」係へ郵送またはEメール(アドレスhiroba@city.tokorozawa.saitama.jp)でご応募ください。

●1月号の新春クイズの答えは「カンコウタイシ」です。正解者の中から厳正な抽選のうえ、50人の方に記念品をお送りしました。なお、当選者の発表は、記念品の発送をもって代えさせていただきます。たくさんのご応募ありがとうございます。

## はつらつ 野老っ子



「地産地消の仕事人」とは、農林水産省に選ばれた地産地消の発展のために活躍する方々のことです。昨年は、所沢市から初となる吉田さんを含め全国で41名の方が選ばれました。吉田さんは、30年以上前からサツマイモの「観光いも掘り」や農産物の直売などを行い、消費者との交流を続けてきました。昔は観光いも掘りは大人気で、都内からバスで大勢の小学生がやってきましたといひます。

「直売」は安く新鮮な野菜を提供するほか、お客様と農家が顔を合わせることで消費者には安心感が、農家には生産意欲が生まれます」と、吉田さんは消費者交流の大切さを話します。昔は直売に似た小さな市場が市内各地にありましたが、流通の発達とともに大きな市場に集約され、農家は市場規格に合う作物を大量生産するため農薬も多用するようになりました。十数年前、小学5年の長女が通う柳瀬小学校の栄養士さんから「子どもたちに無農薬で栽培した収穫したての安全で新鮮な野菜を食べさせたい」と相談がありました。夏休み前の早朝、とうもろこしを収穫してその日の学校給食に茹でて出していた

## 地産地消の仕事人

吉田 昌男さん(南永井在住)

だきました。夕方、帰宅した長女が「友だちが、こんなにおいしいとうもろこし初めて食べた!って言ってたよ」と報告してくれたそうです。

現在では、出荷組合の協力を得て市内の小学校6校にさまざまな地元産野菜を提供しています。

近年吉田さんは、ジャガイモの新品種・赤じゃが(ノーザンルビー)の栽培に県内で初めて取り組みました。一見小さめのサツマイモ風ですが中は赤く、味はジャガイモというユニークな品種です。給食のポテトサラダやコロッケにしたところ「不思議」「おもしろい」「きれい」と子どもたちに大好評でした。

「地産地消は、農家にとっては地消地産。地元で消費されれば、おいしい野菜をどんどん地元に出そうと気が入ります」と、吉田さんは熱く語ります。

ご先祖は殿様への献上用サツマイモを作っていたという吉田家。その血を受け継ぐ吉田さんのいもづくりの今後の活躍が楽しみです。



▲赤じゃが(ノーザンルビー)のコロッケ

### こたつの人

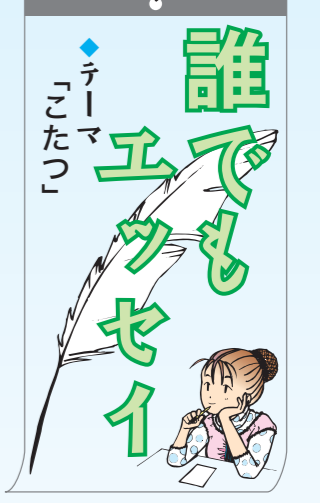
若狭 井上 美恵子



我が家のこたつは、我が家の歴史と共に歩んでいます。40年前の11月25日、姑が用意してくれたこたつです。やがて子どもが2人誕生してこたつが満席になりました。2度の引越しにももちろん一緒です。毎年11月中旬ごろに居間に座して家族団らんを提供してくれました。半年の間1日も休まず働いてくれ、その後は押し入れの中でゆっくりと休みます。月日は流れて子どもたちは巣立ち、空席が2つできました。歯が抜けようにさびしく感じます。昨年、高齢者の仲間入りをしました。若いころの熱気はこたつへ行ってしまったのでしょうか。坂道を下るように熱気が失せ「暖」を取り戻す。こたつの人。になっていく私です。「こたつさん、これからお世話になります。」

### 隠れ家のこたつ

久米 田中 玲子



歴史再発見 とほろざわの文化財 室町時代の貴重な仏画 東福寺 両界曼荼羅 曼荼羅とは、梵語(サンスクリット語)の Mandala(マンダラ)を漢字で表したもので、「本質を得る、すなわち悟りの境地に達することを意味しています。これが転じて仏教の教理や仏の集合図、世界観を表すものを、さらには仏の集団を图示したものをいうようになりました。 両界曼荼羅とは、金剛界と胎藏界と呼ばれる2種類の曼荼羅から成っており、ともに仏教の流派の一つである密教の主要大本如來を中心に多くの仏が一定の秩序のもとに配置されて描かれています(写真は金剛界曼荼羅)。真言宗の寺院にはなくてはならないもので、常時本堂内にかけてきたため、古くから伝わるものはわずかです。

市内本郷の東福寺にある両界曼荼羅は、いずれも絹地に着色され、寸法は縦が146cm、横は98cmです。寺の記録によると室町時代の永祿12年(1569)に造られ、その後江戸時代の宝暦10年(1760)と弘化3年(1846)の2回、そして昭和32年(1957)に3回目の表具修理が行われています。 上部に煙による損傷があるほかは全体的に色調もよく、保存状態も極めて良好です。県内においても室町時代以前の曼荼羅は極めて少なく、貴重な仏画として所沢市の指定文化財となっています。 問い合わせ 文化財保護課 ☎2998-92953 FAX2998-9128

